

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	16-087	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Factors associated with complicated erosive esophagitis: A Japanese multicenter, prospective, cross-sectional study. びらん性食道炎に関連した要因：日本における多施設前向き・横断的研究		
執筆者		
Masahiro S, Noriaki M, Nobuo U, Jun M, Tomoki I, Norimasa Y, Kouichi S, Masahiro N, Hajime Y, Michiya S, Koji N, Katsuhiko I, Takashi J, Ken H		
掲載誌		
World J Gastroenterol. 2017 Jan 14; 23(2): 318–327.DOI: 10.3748/wjg.v23.i2.318		
キーワード		PMID
合併症、びらん性食道炎、プロトンポンプ阻害剤、食道潰瘍、血食道狭窄		28127205
要 旨		
目的： 日本では複雑なびらん性食道炎（Erosive Esophagitis; EE）の罹患率が高まっている。EE による死亡はまれであるが、これらの合併症は重大な罹患率や死亡率に関連する。そこで EE 患者について、臨床的特徴を検討する。		
方法： 2014 年 10 月から 2015 年 3 月までの半年間、日本の病院 106 施設において、上部消化管内視鏡検査で EE と診断された患者を対象とした。一般情報、病歴、併存疾患、生活習慣、胃腸症状や内視鏡検査結果の所見を収集し、データベースを作成した。エンドポイントは、食道潰瘍出血および狭窄を含む EE 関連合併症とした。副次的なエンドポイントは、EE に関連する要因を明らかにすることとし、ロジスティック回帰分析を用いて、調整されたオッズ比および 95%CI を算出した。		
結果： EE と診断された 1,749 人の患者の 38.3%がプロトンポンプ阻害剤（PPI）を処方されており、そのうち 143 例（8.2%）が EE 合併症を有していた。食道出血は 84 例（4.8%）、食道狭窄は 45 例（2.6%）、14 例（0.8%）は両方を有していた。ロジスティック回帰分析の結果、年齢の上昇（オッズ比 [OR]: 1.05; 95%CI: 1.03-1.08）、向精神薬（OR: 6.51; 95%CI: 3.01-13.61）、ロサンゼルス分類のグレード B（OR: 2.69; 95%CI: 8.62-28.37）、およびグレード D（OR: 71.49; 95%CI: 37.47-142.01）は合併症と有意に関連していた。一方、アルコール消費量は 2-4 日/週は負の相関を示した（OR: 0.23; 95%CI: 0.06-0.61）。		
結論： 本研究は、日本人患者の EE に関連する因子を評価する最初の多施設共同の大規模研究であり、その大部分は PPI で治療されていた。加齢と重度の EE は共に関連がみられ、特に食道狭窄では食道潰瘍出血より関連が強くみられた。日本の人口の高齢化と現代日本の日常生活に伴うストレスのレベルの上昇は、PPI の入手可能性および広範な使用にもかかわらず、EE 率および関連合併症の増加をもたらす可能性が高い。		